

## 海外自治体幹部交流協力セミナー2018（ロンドン事務所管内） 事業概要

地方交流事業テーマ： 地域資源等を生かした東日本大震災後のまちづくりの取り組み

海外参加者数： 8名

Jenny Preece（ジェニー プリース）
英国政府 住宅・コミュニティ・地方自治省 社会基盤計画・政策担当副課長
Stephen Baker（ステファン ベーカー）
サフォーク湾岸ディストリクト・カウンシル及びウェイヴェニーディストリクト・カウンシル 事務総長
Anthony Breach（アントニー ブリーチ）
センター・フォー・シティーズ アナリスト
Emma Marinos（エマ マリノス）
サザーク・カウンシル 現代化担当ダイレクター
Cecile Poullain（セシル プーラン）
グレーター・ロンドン・オーソリティ 再開発・経済開発チーム 再開発担当上級職員
John Rooney（ジョン ルーニー）
ロッチデイル・バラ・カウンシル 情報・カスタマ・コミュニティ担当課長補佐
Esmé Spinks（エスメ スピックス）
スペルソーン・バラ・カウンシル 計画開発マネージャー
Richard Vize（リチャード ヴァイズ）
ガーディアン紙 ガーディアンソサエティ記者

日程：

月日	内容
1/20(日)	○来日、オリエンテーション
1/21(月)	【東京セミナー】 ○講義：日本の地方自治（明治大学 木村俊介教授） 復興庁（東日本大震災後の復興状況） ○視察：浅草エリア・仲見世 ○クレア主催歓迎レセプション
1/22(火)	【東京セミナー／宮城県における地方交流事業】 ○視察：有明の丘基幹的広域防災拠点施設 ○宮城県行政説明、宮城県主催歓迎レセプション
1/23(水)	【宮城県における地方交流事業】 ○視察：女川町、アキウ舎、秋保ワイナリー
1/24(木)	【宮城県における地方交流事業】 ○視察：松島町 ○宮城県職員との意見交換会 ○宮城県副知事表敬訪問 ○クレア主催帰国前夕食会
1/25(金)	○移動

## 【1月20日(日)】

参加者来日

## 【1月21日(月)】

## (1) 講義：日本の地方自治

クレア本部会議室にて、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 木村俊介教授による講義を実施。質疑応答では、地方自治体及び国政府の間の分権や選挙制度について質問があった。また、講義の内容を踏まえ、イギリスの自治体も財源が少なくサービスの提供が難しいという問題を抱えているなかで、日本の自治体が限られた財源の中でいかに創造的で新しいサービスを提供しているかということについても意見交換が行われた。



(地方自治講義での質疑応答)

## (2) 講義：東日本大震災後の復興状況

復興庁にて、山崎文夫参事官(広報・国際担当)より東日本大震災で被害を受けた東北地方をはじめとする被災地の復興状況について講義を受け、参加者からは国政府の役割や取組についての質問が相次いだ。

また、東日本大震災の規模は非常に大きかったことから、行政だけでなく、民間企業及び住民も復興に携わっていたとの話はさらに参加者の興味を引き付けたようで、官民連携や阪神・淡路大震災を踏まえた取組みについても議論が展開された。



(山崎参事官の講義を聴聞している参加者)

## (3) 視察：浅草エリア・仲見世

2つの講義を終え浅草寺を参拝。参加者は手の洗い方や祈り方等といった日本文化の説明を受けるとともに、おみくじを引くなど、自由に仲見世を見学した。伝統的なお土産などを見ながらひと時を過ごす中で、正月後で売られていた苺大福を食べた参加者からは「普段このような馴染みのないものは食べないが、食べてみて良かった。おいしかった。」との声もあった。



(雷門の前での集合写真)

## (4) クレア主催歓迎レセプション

グランドアーク半蔵門にて開催。参加者8名のほか、クレアから常務理事をはじめ8名が参加。

## 【1月22日（火）】

### （1）視察：有明の丘基幹的広域防災拠点施設

イギリスでは地震があまり起きないことから、日本ではどのような設備等があるかを理解するため、「有明の丘基幹的広域防災拠点施設」を視察。施設の概要説明を受けた後、オペレーションルームを見学し、常設されている机やコンピュータ、筆記具等の徹底的な準備がなされていることに参加者は驚いていた。

見学後、防災体験ゾーンで地震発生から避難所までの過程において、どのような備えをすればよいかをクイズ形式で学び、防災学習ゾーンでは、2011年の東日本大震災や津波についてコンピュータ分析でも確認した。



（機械を使い地震を体験する参加者）

### （2）宮城県行政説明

地方交流事業の受入先である宮城県に移動し、宮城県庁において県の概要、東日本大震災からの復興状況及びインバウンド政策についても職員から説明を受けた。

質疑応答では、参加者が（職員を含めた）震災後のメンタルケアの提供、復興に関する県知事の役割や県・国政府間の分権について質問し、ロンドンにおける住宅難と日本の人口減少による住宅余剰の比較にまで議論が及んだ。また、復興後の都市計画（安全、防災）を進めつつ、観光誘致政策を進めるためにはどのような取組をしていけばよいかについても意見交換ができた。



（宮城県職員による県概要の説明の様子）

### （3）宮城県主催歓迎夕食会

仙台パルコの「すし波奈」にて、宮城県主催の歓迎夕食会が行われ、参加者はお寿司を中心に宮城県産の日本酒等を楽しんだ。日本の日常生活文化を身近に感じられる雰囲気のお店であり、参加者や受入自治体の方々が和食やイギリスの食文化、今回の視察先などについてざっくばらんに歓談・交流ができ、親睦を深めることができた。



（夕食後の記念写真）

## 【1月23日（水）】

### （1）視察：女川町

宮城県のハード面の復興取組について学ぶため、はじめに女川町を訪問した。冒頭に須田女川町長よりご挨拶をいただき、震災後にイギリスから受けた支援に対する感謝の意が示されるとともに、参加者から記念品が手渡された。町職員の方から町の概要や復興状況に関し説明を受けた後、参加者からは女川町の復興委員会の構成員や活動力のある若者・壮年世代の意見を尊重する政策及び海辺の土地所有者との売却交渉について質問があった。また、旧女川交番や初日の出が見えるように設計されている商店街を視察した。

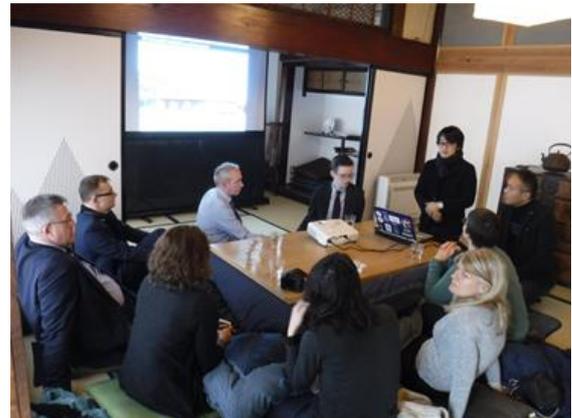


（女川町の概要発表後の視察の様子）

### （2）視察：アキウ舎

160年の歴史を持つ古民家の壁を壁画で飾り、小さいハンマーを使い硬いチョコレートを割って食べるというユニークな食事・体験を提供し、農業や住民、観光やITをつなげ、伝統とモダンの長所を引き出す試みをしているアキウ舎を訪問。観光を中心とした経済復興の取組として、上記以外にサイクリングツアーも計画中で、若者を仙台市へ誘致しようとしているとのこと。

参加者は概要説明を受け、主に伝統の維持や補助金、仙台市との関係等について質問した。



（施設の和室でアキウ舎の取組について聴聞）

### （3）視察：秋保ワイナリー

つづいて秋保ワイナリーを訪問。

震災前に宮城県にワイナリーは1つしかなかったが、ワインツーリズムを目指す取組において、秋保ワイナリーが開業。震災直後はブドウ栽培が困難であったため、東北の他県から仕入れ、ワイン酒造を始めたとの経緯に加え、ヨーロッパ産のワインに対し、日本産のワインは和食に合うように味を調整しているといった独自の取組についても紹介いただいた。

参加者は、ワイナリーの代表者と地域経済や雇用創出、住民の参画について意見交換を行った。



（ワインの説明を聞いている参加者）

## 【1月24日（木）】

### （1）視察：松島町

地方交流事業の最終日に松島町を視察。

東日本大震災の際に、260余の島々のおかげで松島町が津波の被害をあまり受けなかったと松島町職員から説明があった。津波は海の近くにある瑞巖寺の入口まで上がったが、被害は入口の並木道までで留まったとのこと。

震災直後に、松島の景色がそのまま見えるように残すため防波堤を下げたそうで、それを聞いた参加者からは松島の観光復興や、当時の町の避難状況について質問があった。



（雪を耐えながら松島湾の前で）

### （2）意見交換会

一連の視察を通じ、女川町の一からの再建、仙台市の経済復興、松島町の防災及び魅力の維持についてレクチャーを受けた後、宮城県職員との意見交換会を実施。

参加者は1人ずつセミナー全体の感想を発表し、震災時の報道が思い起されるが、当時活躍された方や官民協力、被災者の方々の強さを知り、感銘を受けたと賞賛していた。また、イギリスと比較し、コミュニティが一丸となり、復興のために助け合ったという事例が印象に残ったこと、さらには、視察で受けた洪水対策の考え方を自国に持ち帰り、参考にしたいという声もあった。

宮城県職員からは、震災直後に県議会及び県職員が県民の生活再建に向け協働関係を築いたことや、若い人たちがが中心的な役割を担うこと、また、今後の観光政策の重要性についてお話いただいた。



（宮城での時間を振り返る参加者）

### （3）宮城県副知事表敬訪問

意見交換会后、河端宮城県副知事を表敬訪問。

参加者を代表して団長が感謝を述べ、副知事に対し復興で最も重要なことについて質問したところ、副知事からは、県民の命を守ること、特に被災者のニーズに対応すること、また、地震発生時には県民に避難を積極的に誘導することが重要であるとの回答をいただいた。さらに、復興に対する思いや取組の持続性について質問されたことに対し、国の計画では復興の支援があと2年しかないが、宮城県としては完全な復興を達成できるまで全力で取り組み続ける、と答えられた。

表敬訪問では、記念品交換や記念撮影も行われた。



（河端副知事との記念品交換）

#### (4) クレア主催帰国前夕食会

地方交流事業の最終日にクリア帰国前夕食会を開催。宮城県職員とセミナー視察全体を振り返り、東日本大震災について、改めて職員の方から当時のこと、また、これまでの復興に係る取組について伺うことができ、参加者との交流を深めた。

最後は、参加者がセミナーの思い出を想起させるお土産を配ったりし、会場を沸かせるなど終始和やかな雰囲気の中で行われ、本セミナーは終了した。



(お土産交換後の和やかな笑顔)

#### 【1月25日(金)】

東京へ移動

#### 【1月26日(土)】

参加者帰国